活用のある自立語(3)

自動詞・他動詞

動詞は、動作の対象「何を」を必要とするかどうかによって、自動詞と他動詞に分けられる。他動詞は、何かに対して働きかける動作や作用を表す。

・**自動詞**…動作の対象「～を」をとらない動詞。
（例）人が集まる。　ものが壊れる。　花が咲く。

・**他動詞**…動作の対象「～を」をとる動詞。
（例）人を集める。　ものを壊す。　本を読む。

可能動詞

五段活用の動詞が変化してできた、「……することができる」という意味を表す下一段活用の動詞を、**可能動詞**という。

（例）話す　→　話せる
聞く　→　聞ける
書く　→　書ける
読む　→　読める

可能動詞はそれだけで一つの単語なので注意する。また、可能動詞には命令形はない。

補助動詞

動詞のうち、上の語に意味を補う、本来の意味が薄れた動詞を、**補助動詞**（形式動詞）という。

（例）人が　歩いて　いる。（補助動詞）

※補助動詞「いる」は、「存在する」という元の意味が薄れ、今動作が継続しているという意味を補う働きをしている。

補助動詞は主に「～て（で）＋補助動詞」の形で用いられる。

（例）～て　いる　　～て　ある　　～て　みる
～て　くる　　～て　いく　　～て　おく
～て　あげる　　～て　もらう

ら抜き言葉とれ足す言葉

上一段・下一段・カ変の動詞には可能動詞がなく、可能の意味を表すときは助動詞「られる」を使う。

（例）見る→見　られる（助動詞）　出る→出　られる（助動詞）　来る→来　られる（助動詞）

「見れる・出れる・来れる」といった言い方は、ら抜き言葉といい、共通語では規範的ではないとされる。　※これまだ食べれるよ。（×）

五段活用の動詞で可能の意味を表すときは可能動詞にすることが多いが、助動詞「れる」を使うこともある。

（例）行く→行ける（可能動詞）　行く→行か　れる（助動詞）

「行けれる」といった言い方は、れ足す言葉といい、共通語では規範的ではないとされる。　※このペンなら書けれるよ。（×）

確認テスト

(1) 次の①～④の動詞が、自動詞なら**ア**、他動詞なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① 動く〔　　〕　② 動かす〔　　〕
③ 変える〔　　〕　④ 変わる〔　　〕

(2) 次の中から、――線部が可能動詞であるものを二つ選びなさい。

ア 何も話せない。　**イ** 何も話さない
ウ これで書きます。　**エ** これで書けます。

〔　　・　　〕

(3) 例に従って、次の①～④の動詞が五段活用の動詞なら可能動詞を答えなさい。また、五段活用以外の動詞なら助動詞「られる」を付けた形を答えなさい。

（例）話す→〔話せる〕　見る→〔見られる〕

① 言う〔　　〕〔　　〕
② 来る〔　　〕〔　　〕
③ 走る〔　　〕〔　　〕
④ 起きる〔　　〕〔　　〕

(4) 次の中から、――線部が補助動詞であるものを三つ選びなさい。

ア とりあえずやってみる。　**イ** 美術館で絵画を見る。
ウ メモを机の上に置く。　**エ** 楽しみをとっておく。
オ お土産を学校でもらう。　**カ** お菓子(かし)を買ってもらう。

〔　　・　　・　　〕